

富田 LETTER Vol.1

景観まちづくりワークショップ
第一回in富田 10月17日(土)

▼ごあいさつ

この“富田レター”では富田で開催している「景観まちづくりワークショップ」の様子をお伝えします。このワークショップは、恵那市と4大学（岐阜大学・京都大学・日本大学・早稲田大学）が主催する、景観計画の策定のためのワークショップです。

▼景観まちづくりワークショップとは？

恵那市ではH20年度より、「景観法」にもとづく景観計画の検討を進めています。この計画は、単に見た目の印象を整えるためのものではなく、恵那市の自然と歴史を踏まえた、今後の産業や暮らしのあり方の指針となるものです。具体的には「山、農地、里、まちのつながりを大切にし、そこでの人々の暮らしが見える風景」を基本的考え方として、地域自治区制度を活用しながら策定をすすめていきます。景観計画は恵那市全域を対象として、明らかに景観を阻害す

ると思われる要素（極端に派手な色の使用や大規模開発）のコントロールをすすめていきますが、より具体的な内容は地域ごとに検討します。そのため、地域ごとに「景観まちづくりワークショップ」を開催し、地域の将来像や景観を構成する要素のデザインの基調、実現の方策などを、住民の方々といっしょに議論します。今年度はまず明智・岩村・山岡においてワークショップを開催し、次年度以降各地域に展開していきます。



▼ワークショップの様子

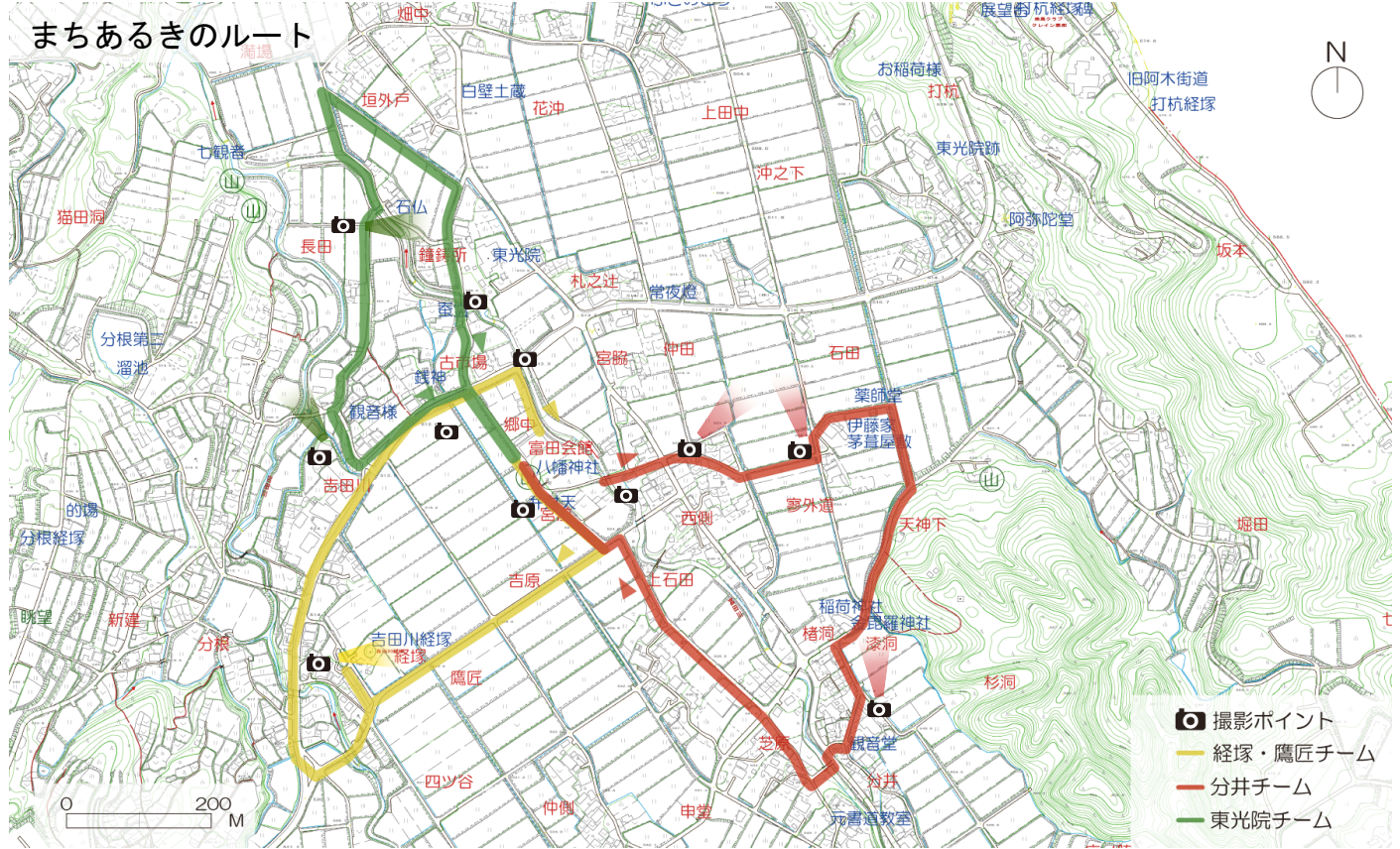


- 自己紹介
- はじめは、自己紹介タイム！でも皆さんもうすでに仲良しですね。学生も混ぜて下さい！
- まち歩き
- ルートを決めて、まち歩きスタート！「なんだ、あの丘の上の石は？」富田のまち歩きは、驚きと興奮の連続です！
- グループ議論
- 一休みして、白熱した議論の時間。一押しの風景、昔懐かしい風景、直したい風景、富田について本気で考えた20分。
- 発表
- 意見がまとまったら、前に出て発表です。ジェスチャーも交えての熱い発表に会場も真剣でした。

▼参加した方の声

- ◇本日参加して、学生さんと一緒に歩きながらいろいろ話をした時、「そういう風な見方」もあるのかとか、普段何とも思わなかった事を、この風景はスゴいねとか言われ、ハッと思った事がいくつかあります。次回が楽しみです。（経塚・鷹匠チーム）
- ◇改めて歩いてみると、普段気付かなかった事や、自分ではなんでもない事が、他の人や学生からは発見や感動を聞いて、また見直した。旅行から帰ってこの山河を見ると、帰ってきたなと安堵感がする。これを残していきたい。（分井チーム）
- ◇久しぶりに歩いて、普段あまり知らない部分も少し（？）発見できた。又機会を見つけて他のエリアも回ってみたい。宿題の写真を撮るために富田全体を回るつもりです。（分井チーム）
- ◇普段歩く事のない生活で自分の住む所を回ってみて又、違った部分が見えてくるようです。荒れた田、川をなんとかしたいと感じられた。（東光院チーム）
- ◎他にも、載せきれない沢山の意見を頂きました！

悪天候の中、参加していただいた富田の皆様、どうもありがとうございました。



▼発見した風景



- 経塚・鷹匠グループ
- ◎気持ちのよい風景
- ・経塚と桜と山の調和
 - ・八幡神社の鎮守の森
 - ・東光院の色鮮やかな桜 などなど
- 分井グループ
- ◎気持ちのよい風景
- ・子供達の遊ぶ恵那川の河原
 - ・三森山からの眺望
 - ・漆洞に広がる棚田
- 東光院グループ
- ◎気持ちのよい風景
- ・銭神や土蔵などの古いもの
 - ・電柱のない郷中の風景
- △気になる風景
- ・吉田川の荒れた河底

▼次回予告！

- ワークショップの内容
- ・どんな風景を大切にしたいか？
 - ・どこから見た風景がもっともよいか？
- 富田らしい風景の将来像を、徹底討論！
- 問い合わせ先
- ・恵那市役所都市整備課 TEL 0570-26-2111,
 - ・岩村振興事務所振興課 TEL 0573-43-2111,
 - ・京都大学景域環境計画学研究室 TEL 075-383-3329
- 日時
- ・時間：11/7（土）13：40～
 - ・場所：ふるさと富田会館
- てるてる坊主をつるして
お待ちしてまーす！
-

次回も、たくさんのご参加をお待ちしています。 富田レター編集：京都大学



▼ごあいさつ

この“富田レター”では富田で開催している「景観まちづくりワークショップ」の様子をお伝えします。このワークショップは、恵那市と4大学（岐阜大学・京都大学・日本大学・早稲田大学）が主催する、景観計画の策定のためのワークショップです。

恵那市ではH20年度より、「景観法」にもとづく景観計画の検討を進めています。この計画は、単に見た目の印象を整えるためのものではなく、恵那市の自然と歴史を踏まえた、今後の産業や暮らしのあり方の指針となるものです。具体的には「山、農地、里、まちのつながりを大切にし、そこでの人々の暮らしが見える風景」を基本的考え方として、地域自治体制度を活用しながら策定をすすめていきます。

景観ワークショップ
に参加しに行こう！



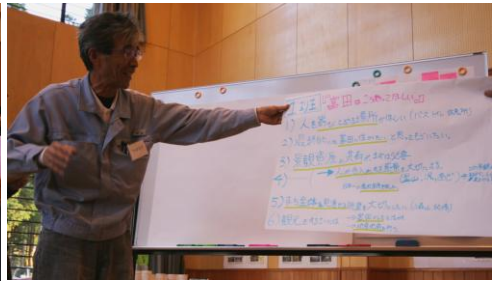
▼ワークショップの様子



宿題写真を見合いっこ



富田の大切なもの



富田あるべき姿

いつもの自己紹介の後に、みなさんが宿題で撮ってくれた写真の見合いっこしました♪
いくつかのいい風景を発見できたでしょうか？
投票結果は、右上をチェック!!🔍

次は、富田の大切なものを語り合う～
ここに基地を作って、そこで渡り鳥をしとめて…なんて思い出の風景を語り合いました。
講についても話し合いました。🗣️

最後は、未来の富田について灼熱の議論！
富田のあるべき姿を、それぞれ5つ挙げてもらいました。🗳️
議論を通して気持ちが一つになったような気がします！

▼ワークショップで得られた意見

富田の大切なもの

- 眺望
 - ・**的場&分根**；富田全体を一望(I田さん宅のお庭)
- 水辺
 - ・**吉田川(経塚の近く～大柳)**；魚釣りや堰で作ったプールで遊んでいた
 - ・**分根第一溜池**；夏には水泳、冬にはスケートをしていた
- 里山
 - ・**里山での山小屋作り**；子供の頃、よく基地を作っていた
- 景物
 - ・**阿弥陀堂の桜**；春の種をまく時期を告げる「種まき桜」という素敵な桜
 - ・**水路の蛭**；仲側や薬師堂あたりの水路に、今でも蛭がたくさん棲んでいる
- 伝統行事
 - ・ご近所のまとまりで、春・秋の「講」をしている。

富田あるべき姿

- 町全体を見渡せる眺望を大切に；**三ツ森、的場**
- 川辺をきれいにする；**蛭**や魚も戻り、子供やお客さんが喜ぶ
- 育まれてきた**文化・風習**を残す；伝統行事（お祭り）を続けことで、神社やお堂を残していく
- 農村景観**を残す；水田にこだわる、転作をなくす
- その他
 - ・**今ある風景**を残す；背の低い建物、古い蔵などを大切にしたい
 - ・**人を呼びとめる場所**が欲しい；バス、トイレ、休息所
 - ・最終的には**富田に住みたい**と思ってもらいたい
 - ・**景観資源に対する共通認識**が、まずは必要
 - ・**人が手入れする風景**を大切にする；里山、沢、畦など
 - ・観光をする際には；**富田らしさ**を活かす、**地産地消**を行う

▼投票数の多かった宿題写真と撮影場所



第1位:展望台(25票)
富田全体がよく見えますね



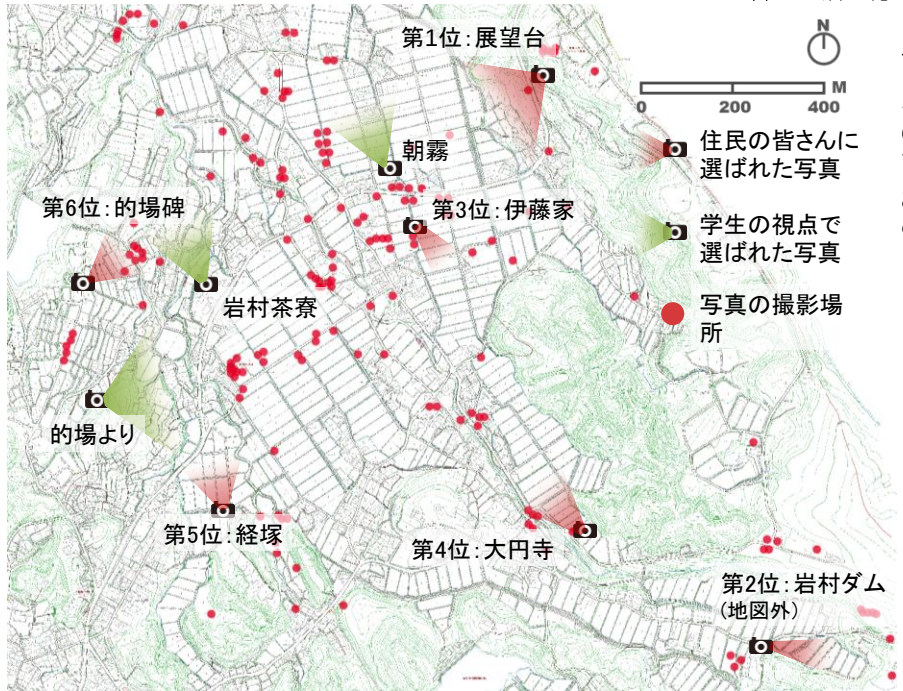
第2位:岩村ダム(15票)
水面に映る木々の色合い！



第3位:伊藤家(13票)
昔の生活が偲ばれる姿



第4位:大円寺(12票)
独特な藁と田圃の作る風景



的場より(4票)
ほどと山並みのコラボ！



岩村茶寮より(3票)
下り坂、畑と家並の行進。



朝霧(2票)
何も無い田に降る朝霧…



一本松
木陰が気持ちよさそうです

▼参加した方の声

それぞれの話を聞き、私と一緒に気持ちで見ているなと思った。これから、この気持ちで子供・孫などに話し、10年・20年・50年と現在の風景を残していきたいと思っています。

前回の町歩きと違い、富田の地域の根本にある考え方が、この景色を残すことにあるという点に共通していると実感しました。将来、子・孫に残す景観と生活をいかにするか、今検討をよくしなければと思います。(M・Yさん)

今日は、本来活かしていかなければならない田園風景を残す事、生活をしていく事、は切り離せなく、WSで提案してくべきことという課題が、明確になった。これからが本番だ、いい知恵を出そう。(K・Aさん)

言い方、考え方は色々あるけれど、ここに集まった人全員が、この風景や習慣・祭等をそのまま残したいと考えていること。あらためて、富田はいい所だなあ、と思いました。(T・Nさん)

感想文の一部抜粋

▼次回予告！

■ワークショップの内容

- ・これからの富田のむらづくりの長期計画・短期計画について考えます

■日時

- ・時間：12/6（日）13：40～ ・場所：ふるさと富田会館

■問い合わせ先

- ・恵那市役所都市整備課 TEL 0570-26-2111, ・岩村振興事務所振興課 TEL 0573-43-2111,
- ・京都大学景域環境計画学研究室（担当；山口） TEL 075-383-3329

次회가最後ですかかし、皆さん来て下さいかし。



富田レター編集：京大大学生(田中)



ごあいさつ

この“富田レター”では富田で開催している「景観まちづくりワークショップ」の様子をお伝えします。このワークショップは、恵那市と4大学（岐阜大学・京都大学・日本大学・早稲田大学）が主催する、景観計画の策定のためのワークショップです。

恵那市ではH20年度より、「景観法」にもとづく景観計画の検討を進めています。この計画は、単に見た目の印象を整えるためのものではなく、恵那市の自然と歴史を踏まえた、今後の産業や暮らしのあり方の指針となるものです。具体的には「山、農地、里、まちのつながりを大切にし、そこでの人々の暮らしが見える風景」を基本的考え方として、地域自治体制度を活用しながら策定をすすめていきます。

たくさんのご参加、本当にありがとうございました

ワークショップでのご意見

今回のWSで話し合った“富田の長期目標”と“アクションプラン”を班毎にまとめました。各アクションプランに付いているの☆は、投票結果の票数に対応しています。

長期目標

①班 里山・棚田・水元が一体となった自然のまち富田

●里山と棚田(ボタ)の関係を大切に
●新しく入って来る人にも組み入りしてほしい（宅地開発されたところが気になるので、地域と付き合いを持って欲しい）
●田んぼを守るために、水源を大切に
●(富田のキーポイント)桜を枯さない
→今のままの富田でいて欲しい

アクションプラン

●ハイキングコースの計画、棚田、農村風景、御嶽山などをみるコース、富田周遊コースを計画する★

●絵ハガキを使い富田の良さを知ってもらう。まずは身内から送って、そこから口コミで広めていく。★★★

●個人での農作業での手入れや、現在はあまり行われていない里山の手入れを維持していく。★

長期目標

②班 農村生活日本一

●観光客として訪れる人が、いずれ住んだり農作業しに再び訪れて欲しい
●里山の山際、恵那川を水源まで遡れる水辺の道、休耕作地などへ手入れを行き届かせる(そのような習慣を次の世代に繋いでいきたい)
●農村景観は富田全体で日本一、だから富田全体を巡って欲しい
●ポイントを絞って休息所などを作る

アクションプラン

●季節ごとの富田の移り変わりや茅葺の屋根でのイベント（団体での宿泊等）を写真や文章で、観光協会HPなどを活用し発信をする。★★★

●農業の一つの行程や、マニアックな草刈りや米の苗代作り、旧耕作地の手入れなどを体験してみる。これらの体験活動を営農組合が主導してはどうか？★

●同好会が中心となって、昔から根付いている伝統的な食品（味噌や米、寒天、干しいもなど保存食等）の作り方講座を開催する。場所は、茅葺の屋根を有効活用する。★

長期目標

③班 農業と観光のバランス

●“農業生産”を続け若い世代に定住を
●“農業”を続け現在の“農村景観”を残し
●“農業”“景観”を活かしたイベントによる“来客”の増加
●来客者に富田の農産物を“販売”

アクションプラン

●リーフレットの作成★

●景観ルートの整備、途中にトイレの設置を行う★★★

●伊藤家などの拠点の整備★

●農業体験を企画して、作る楽しみ、食べる楽しみ、土産の楽しみを作り出す★★★

●子供の定住★

●富田ブランドを立ち上げる。(例えば、販売品に“景観日本一ラベル”を張る)★★★

農業生産

来客

購買

景観

ワークショップの様子



村づくりの長期目標を考える!

アクションプランを立てる!

アクションプランへの投票

前回までの話し合いで、皆さんの大切なものを共有してきました。それを踏まえて、こうなって欲しい富田、皆さんを夢を語り合って頂きました。決して夢では終わりません！

どうすれば目標を実現できるのか、皆さんができること、やりたいことを話し合いました。さすが富田の皆さん！たくさんの素晴らしいお知恵を頂きました！

たくさんのアクションプランの中から、皆さんが特によいと思うプランへ投票して頂きました。住民の皆さんと一緒にこれらのプランを実行し、よりよい富田へとしていきたいと思います！

宿題作文の公開

第二回の宿題として、総勢13通の富田の夢とそのためにできることを送って頂きました。

お題1「これからの富田はこうあってほしい」「富田のこれを残したい」

○今ある故郷の景観を残す;日本の原風景、昔ながらの美しい田園・農村景観、四季の移り変わり、静かで雄大な風景
○手が行き届いた農村景観を残す;田・畑・山の管理が行われていて、荒れた土地が少ない、地区内の人の心・人情が表れている
○農の営みを継承する; 富田の新しい事業・計画はすべて「農」（農業・田畑）を原点とする
○伝統的な行事を残す（時代に合わせて続けられてきた）
○これからも地域のつながり、助け合いを大切にする
○次世代の人材を育成する; 大家族のなかでの子育て、農業従事者、文化の継承者を育てる

お題2そのためにみんなでできること、したいこと

○農業促進とブランディング;米のブランド化、特産品を開発、販売施設を設置、里山・富田川の利用、若者の雇用環境
○協力体制の構築; 土地の管理、他地域と連携した地産地消、行事や祭りを継続、清掃活動に協力、ういち会に協力
○交流の推進; 地区の方同士の交流、他地区との交流（特産物、販売促進などの勉強など）→茅の家の活用
○次世代の育成; 子供たちへの歴史・文化・農業の伝承、若い人の働き場所の確保、農業後継者サポート
○眺めのいい場所の景観整備; 木を切る、ベンチを設けるなど

参加した方の声

色々なものが関わり合って景観は維持されていくので、色々な方策を実行していけたらと思います。これを機会に今後もお付き合いしましょう。

一人の力では何も出来ないけれど、皆の智恵が集まって大きな力に育っていけばと期待しています。(Nさん)

これからの富田が楽しみですになります。これがスタートですね。娘たちが帰ってきて、いいところやねー、といつまでも言ってもらいたいですね。(Yさん)

今回のワークショップの話を聞くなかで、何か明るい光が見えたような気がしました。地域が自立する方法を、これからも考えていきたいと思いました。(Nさん)

感想文の一部抜粋

編集後記

「富田パワー」：今回のWSを通じて、富田の皆さんの熱意や活力にたくさんの刺激を頂きました。今後の富田を盛り上げるために、皆さんのお知恵とお力をお貸し下さい。ご愛読、ありがとうございました。(田中)

富田には、農村景観などの目に見える美しさだけでなく、皆様の地元に対する熱い思いや地域の交流など、目に見えない美しさがあることを実感しました。WSへのご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。(村尾)



▼ごあいさつ

この“富田レター”では富田で開催している「景観まちづくりワークショップ」の様子をお伝えします。
このワークショップは、恵那市と4大学(岐阜大学・京都大学・日本大学・早稲田大学)が主催する、景観計画の策定のためのワークショップです。
恵那市ではH20年度より、「景観法」にもとづく景観計画の検討を進めています。この計画は、単に見た目の印象を整えるためのものではなく、恵那市の自然と歴史を踏まえた、今後の産業や暮らしのあり方の指針となるものです。具体的には「山、農地、里、まちのつながりを大切に、そこでの人々の暮らしが見える風景」を基本的考え方として、地域自治体制度を活用しながら策定をすすめていきます。

▼今回の報告会の主旨

今回の報告会の目的は、これまで3回にわたって行ってきたWSを振り返るとともに、その成果としての景観計画の素案を皆さんに報告し、一つずつ確認を得ながら、さらによいものにしていくためのアイデアをいただくことです。富田の景観づくりの大目標、小目標及びアクションプランと合言葉、さらには地域絵図について、さらに良いものにするために、あつく議論していただきました。

▼報告会の様子



① これまでのWSのご報告

これまでの3回のWSでどのようなことをしてきたのか、またどのような成果ができたのかを、皆さんにご報告しました。

② 景観計画の確認・議論

前回までの成果に対して、小目標、大目標、合言葉、アクションプランの確認とあらたな提案を行いました。各班白熱した議論が展開されました。

③ 地域絵図のご披露

富田のよさを一目で伝える地域絵図を確認してもらい、どのようにすればよりよく伝わるのかを話し合ってもらいました。

▼富田景観計画と皆さんの意見

■大目標■

- 地域内の助け合い、協力の体制を維持・構築し、持続的な農業と美しい景観づくりをめざす
- 美しい風景のなかで歩き、休息し、地域の人々が交流しあえる村づくりをめざす
- 風景、茅の家などの資産、豊かな食文化、年中行事とイベントを他地域の方との交流のために活かし育てながら、交流を軸とした農作物の「販売」、「地産地消」、「米のブランド化」をめざす



報告会でのご意見

「交流」は手である。本当の目的は、「地域の自」だ！！

■小目標■

	小目標の項目	これまでのWSでのご意見
空間	○今ある故郷の景観を残す	「昔ながらの美しい田園風景・農村景観、史跡や歴史的な建物などの歴史の風景を残したい」 「四季の移ろいが感じられるようにしたい」
	○手が行き届いた農村景観を残す	「田、畑、山の管理、草刈が行われていて、荒れた土地が少ない富田にしたい」
	○外からのまなざしを意識する	「きれいな川にして、川に子供も魚も取り戻したい」
生業	○農の営みを継承する	「農業で生活できるような村にしたい」 「これまでの「農」に誇りを持ち、続けていこう」
	○交流を軸として農村生活と観光を結びつける	
	○次世代の人材を育成する	「農業従事者、文化の継承者を育てる」
	○これからの地域のつながり、助け合いを大切にする	
文化	○伝統的な行事を継承する	
	○食文化を継承する	
	○情報発信する	

報告会でのご意見



「個々の農家」が、農を継承していこう

将来、企業が農地を買収する可能性を見据えた上で、結びつきを強くしておこう！

城下町としての富田の歴史を・伝承したい

■合言葉■(投票数)

- 手をいれつなごう農の風景 (9)
- みんなでつくる農村生活日本一 (7)
- 里山・棚田・水元が一体となった自然のまち富田 (5)
- 農業と観光のバランスのとれた農村 (3)

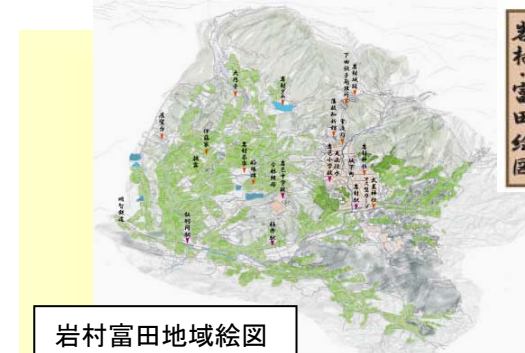
報告会でのご意見

短くてインパクトがあり、大人も子供も理解できるものがいい

皆さんの提案

- ・眺望絶佳 富田富士の里
- ・いにしえ体験ゾーン 富田農村景観

▼地域絵図に対するコメント



報告会でのご意見

山並みを描いてほしい(特に、富田の象徴である三森山や城山)

棚田の美しさが伝わるような絵図にしてほしい！

観光資源などを示す矢印の位置を正確にしてほしい！

▼参加した方の声

企業が農業に参入し景観を破壊するようなことのないよう景観計画ができ、景観法で保護できるようお願いしたい。

毎回WSに参加して計画素案ができたのですが、文章にすると、まだまだしっかりとした計画を作る必要を感じました。

理想と現実問題の差が大きく、長い時間と人の力、知恵が多いに必要だと思います。

富田のこれからの参考となるようです。大いに利用したいと思います。

▼お問い合わせ先

- ・恵那市役所都市整備課 TEL 0570-26-2111,
- ・岩村振興事務所振興課 TEL 0573-43-2111,
- ・京都大学大学院景観設計学研究室 TEL 075-383-3329

▼アクションプランに対するご意見

合言葉や目標を踏まえた上で、景観計画にかかわる内容のアクションプランを、空間、生業、文化という3項目に分けて議論し、皆さんにご意見をいただきました。

(1)空間

大切にしたいもの

アクションプラン

○今ある故郷の景観

- ・骨格としての地形
- ・田、里山、川
- ・添景の樹木、家
- ・小高い視点場
- ・景観阻害要素の除去

○手入れされた農村の景観

- ・荒地のない田、ぼた
- ・川、里山
- ・社、石垣

○歴史の景観

- ・茅葺屋根の家、土蔵
- ・大円寺、吉田川経塚、的場碑
- ・銭神様、氏神様、石仏群
- ・七観音(祭り・八幡神社、白山神社)
- ・東光院、鐘など
- ・養蚕(家の形)

○山や樹木の景観

- ・三森山
- ・梨の木
- ・漆洞の山桜、大洞・阿弥陀堂の桜

農村風景の手入れ・景観保全

○景観の保全

- ・高い建物は建てないようにしよう
- ・土蔵など古くから残る建物を守ろう
- ・桜を枯らさない

○地域資源・景観資源への手入れ

- ・ぼたの手入れ・刈り込み
- ・共同市道などの草刈、水路の清掃・草刈
- ・耕作放棄地の手入れ(農業再開、花・・・)
- ・神社・祠の手入れ
- ・里山の手入れ

○美しい風景の阻害要因の除去

- ・みんなで見守ろう富田の風景
- 風景カタログの作成
- 優良家屋・最も美しいボタの表彰

おもてなしの空間整備

○拠点整備

- ・眺めのいい場所の景観整備(木を切る、ベンチを設けるなど)
- ・休息場所の手入れ(眺めのいい場所、休める場所、バス停)
- ・茅の家を使った農業体験の推進
- ・小さな農産物売り場
- ・観光案内所をつくる

○回遊路整備

- ・日常的な散策者のためのモデル・ウォーキングルートと拠点の明確化(お堂巡り+α)
- ・川縁の散策路、棚田
- ・農村風景・御嶽山などをみるコースなど
- ・トイレの設置

○岩村城下と空間的につなぐ

- ・駐車場、視点場、休憩所の配置計画
- ・コミュニティバス

報告会でのご意見

奇抜な色の建物は建てないようにしよう。

個としての桜、群としての山桜をみんなで守ろう。

里山の山桜は管理者がおらず喪失の危険がある。

抽象的な「優良家屋」ではなく、屋根の形態や色彩など農村風景に調和した家屋を推奨する。

屋根：切妻、長手方向は既存の家屋や棚田の向きを考慮、瓦葺もしくは檜皮葺が理想的。壁面は白色、木材仕上げが望ましい。

ぼたではなく、美しい花壇などぼた以外の表彰が良い。

整備のみでなく、保全管理が重要だ。

富田のみでなく、城山を眺められる場所もほしい。

「小さな」ではなく、「直販」という言葉を用いてほしい。

車のための回遊路も考えよう。

美しい水辺に遊び場と散策路を整備したい。

富田の水田、農村風景、登山、歴史的なストーリーのあるルートなどを整備したい。

(2)生業

○農の営みの継承

- ・富田の新しい事業・計画はすべて「農」(農業・田畑)を原点とする
- ・次世代の人材の育成
- ・荒地のない田
- ・川、里山の維持管理
- ・祭りの維持

持続的な農業体制の構築

○協力体制の構築

- ・土地の管理、荒地をつくらない仕組みをつくる(営農組合などと連携)
- ・他地域と連携した地産地消を推進する・昔ながらの行事や祭りを継続する(小さいもの)
- ・清掃活動(共同市道の草刈、水路の草刈・掃除)に協力する
- ・NPO活動に協力する

「農商の」協力体制の構築、としたい。

営農組合とともに荒れかけた耕地を見つけた仕組み、荒れてしまった田畑を農地に戻す方法を考えなければいけない。

大切にしたいもの

アクションプラン

○地域のつながり・助け合いを継承

- ・営農体制
- ・清掃活動
- ・行事、祭り
- ・NPO活動

○季節の風景

- ・年中行事
- ・景物

○次世代の育成

- ・子供たちへの歴史・文化・農業の伝承(祭りやイベントに子供たちが参加)
- ・若い人の働き場の確保・農業後継者サポート
- ・第二種兼業農家の育成
- ・ボランティアの参加をよびかける

ブランディングによる農業促進

- ・収穫祭などの米と祭りと販売を結び付けた大きなイベント・市(恵那市の特産物との連携で「おいしい米を食べよう」イベント・市など)
- ・作り手の顔の見える販売機会の創出(採れたものを集めて、みんなで売る！)
- ・米のブランド化、特産品を開発する(販売品に農村景観日本一ラベルを張る)
- ・販売施設を設置する・里山を(きのこや広葉樹なども)利用する
- ・きれいな水(富田川)を有効利用する

報告会でのご意見

親子で参加、子供が参加できるイベントを企画しよう。(もち投げなど)学校行事へ組み込もう。

第二種兼業農家はいないのではないかな。

何のボランティアを呼びかけるのか。

ブランディングよりも、地域のブランド化の方がわかりやすい。

美しい風景と農との抱き合わせで販売しよう。

(手入れの行き届いた耕地でとれた米だとアピールする。)

現在の生業だけでなく、養蚕等の過去の生業の記憶も残してほしい。

(田の字造りの家屋の保存)

里山を活かした旬のもの、気候を活かした作物、漬物などを売り出したい。

(3)文化

○伝統的行事、祭りの風景

- ・山の神
- ・「講」
- ・お堂巡り

○交流の推進

- ・小さな祭への参加促進(新規住民の積極的な参加促進、組入りへ向けて)
- ・茅の家を活用した交流拠点づくり
- ・出身者へのイベントへの参加の呼びかけ
- ・観光客に富田に住む、あるいは再び訪れ農作業してもらうための、長期の体験の推奨

○食文化

○農村生活文化を活かした観光

- ・農業体験による交流(田植え・収穫・ぼたの刈り込み・藁にござ・米の苗代作り・旧耕作地の手入れ)
- ・伝統的な食品のつくり方講座(住民同士・来訪者と住民)(味噌や米、寒天、干しいもなど保存食等)の開催
- ・山岡との連携、おばあちゃん市を直販所として活用とか

○情報発信

- ・リーフレットや絵ハガキの作成。富田の良さを知ってもらう。
- ・季節ごとの富田の移り変わりや茅葺の屋根でのイベント(団体での宿泊等)を写真や文章で、観光協会HPなどを活用し発信をする。

住みたい人に対するサポート体制を構築しよう。

民宿体験プログラムを充実させよう。

(宿泊客が畑の作物を収穫できる仕組み)

長期滞在プログラムも考えよう。

週末農業なども実施しよう。

座禅など、お寺での体験プログラムはどうか。

▼お問い合わせ先

- ・恵那市役所都市整備課 TEL 0570-26-2111,
- ・岩村振興事務所振興課 TEL 0573-43-2111,
- ・京都大学大学院景観設計学研究室 TEL 075-383-3329